

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		武蔵野市放課後等デイサービスパレット		公表日		令和6年 12月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数や生活の特性に合わせて、現在はパーティションを開けて活動室を広く使用できるように設定している。	利用する子どもの人数や特性に応じて、活動室をパーティションで区切ったり広げたりすることができる。 大きな活動室と小さな活動室に分かれる事で、それぞれの活動に合わせて対応している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員は制度上の基準以上に配置されている。利用状況に応じて、法人内で協力体制を整え、手厚い支援を行っている。	長期休みは預かり時間が長い為、学生ボランティア等の活用を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動室内の安全点検は日々行っている。車椅子のねじゆるみなどの定期的な安全点検を半年毎に行っている。	身体障害や医療的ケア児が対象の施設だが、活動室が2階にある為、災害時に避難をする際には人手が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動室の掃き掃除やモップ掛け、手すりやドアのふの消毒、遊具や絵本の消毒・整理等、丁寧な掃除や環境整備を心がけている。	引き続き行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの特性や活動に応じて、パーティションで空間を区切る事で、個々のスペースを確保している。	利用状況に応じて設定していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務全般については、月に1度会議を設けている。利用児への支援については、支援の統一に向けて支援会議を設けている。	業務担当については、様々な職員が共通理解できるよう、マニュアルを作成し、仕事の引継ぎを行っている。支援内容は書面にして参加していない職員も確認できるようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けアンケートをもとに保護者交流会の開催や、衛生面の改善の為にトイレ内にベッドを設置して対応している。	保護者からの意見を参考に、業務改善に取り組んでいく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の活動後、会議の場で意見を確認する場を設けている。職員からの意見を全員で確認し、改善できるよう取り組んでいる。	引き続き行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は行っていないが、指定管理者制度を導入している公の施設である為、武蔵野市の「公の施設」モニタリングを受け、業務改善に活用している。	第三者評価の実施については今後検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内での研修の実施や外部の研修に参加した。研修に参加した職員が、現場にて伝達研修を行うことで、内容を共有している。 学校公開が再開されたことで、職員が出向き学校生活の様子を見学している。学校での様子や学校教師からの情報を事業所内で共有している。	研修には子どもたちの受け入れ時間との兼ね合いを考慮して参加している。 外部研修にも適切に参加できるよう体制を整えていく。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		令和6年12月に公表している。	必要に応じて更新していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		職員が子どもの特性や、子どもや保護者のニーズを共通理解できるよう会議を行っている。その上で課題を抽出し、個別支援計画を作成するよう心掛けている。	個々の成長、特性に合わせた支援を行えるよう個別支援計画を作成し、見直していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		会議にて支援計画の振り返りを行い、課題を分析した上で新しい支援計画を作成している。	引き続き行っていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で内容を共有し、統一した支援ができるよう会議の場を設けている。	引き続き行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		現在は標準化されたアセスメントツールは使用していない。 放課後等デイサービスガイドラインの項目に沿って、アセスメント項目で評価をしている。	引き続きガイドラインに沿ってアセスメントを行う。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	「本人支援」は5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）の視点を踏まえた上で、「自立支援と日常生活の充実の為の活動」「多様な遊びや体験活動」「地域交流の活動」「子どもが主体的に参画できる活動」の4つの基本活動を複数組み合わせながら、個々のこどもに応じて支援を提供している。 また、「家族支援」や「移行支援」「地域支援・地域連携」を通して、育ちの環境を整えていく。	引き続き行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	行事や活動に対して、職員間で話し合い内容を共有しながら進めている。	引き続き行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	普段の生活だけでなく、毎月に行事や活動を設定している。 長期休み時は外出活動として児童館訪問やミュージカルの観劇、地域との交流等、普段体験できないことも取り入れている。	職員や関係機関から情報を取り入れながら、様々な経験ができるように計画していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別活動と共に小集団で過ごす時間を設ける事で、他者とのコミュニケーションや社会性の獲得に繋げていきます。	引き続き行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日ミーティングの時間を設けて確認している。 出勤時間が異なる職員には出勤した際に予定を伝えている。	引き続き行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	その日の特記事項、職員配置について毎日行っている。送迎担当には戻った際に報告するか、勤務時間が過ぎるようであれば翌日に報告、もしくは記録を確認している。	引き続き行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎日記録をとっている。保護者や学校からの連絡、引きつぎ事項も記載する事で漏れないよう配慮している。 個別支援計画や支援会議の際に記録を活用している。	引き続き行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	個別支援計画の更新に限らず、月に一度以上、支援会議を開き支援の振り返りや共有を行っている。	個別支援計画の見直しが必要になった場合には行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	利用児の特性に合わせて、様々な活動を組み合わせ支援している。	利用児の興味関心に限らず、様々な方向からアプローチをかけていく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	パレットの活動の中で選択する機会を設けている。 製作時の素材選び、余暇活動の選択、おやつ の選択等、本人の意思表出や自己決定する場としている。	本人の意思決定を大切にしながら支援を進めていく。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	相談支援事業所のサービス担当者会議はまだ行われていない。 新規利用児を受け入れる際には、相談支援事業所より引継ぎを受けている。	機会があれば積極的に参加したい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	近くのいるかこどもクリニックと協力体制を取っている。 指定管理者制度を導入している公の施設である為、武蔵野市の障害者福祉課と定期的に連絡会を設けている。	引き続き行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校送迎時に確認できることは都度行い、時間をとって確認する必要があることは直接電話をして確認している。	引き続き行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	保育所や児童発達支援事業所へ見学に行き、子どもの様子を担当職員から伺い、事業所の環境設定の参考としている。	就学予定の子どもを受け入れる場合には行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	卒業して障害福祉サービス事業所等へ移行する場合には、保護者や本人の意向を確認した上で支援内容等の情報を提供していく。	引き続き行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	保護者の意向を確認した上で、同法人の児童発達支援センターより、就学し当事業所を利用する子どもについて引き継ぎを受ける体制を整えている。	引き続き行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	長期休み時には近くの児童館を訪問している。活動の見学をさせて頂く形で、場の共有を図っている。	引き続き機会を設けていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	職員が自立支援協議会の住まい部会に参加している。障害がある方の地域での暮らしに焦点を当て、一人暮らしをする為にサービスや支援について検討している。	法人の体制の中で、機会があれば参加していく。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日常の小さな変化についても連絡帳や送迎時にお伝えしている。また、モニタリング後には半年間の成長や課題と感じている事を面談にてお伝えすると共に、家庭や学校での状況を聞き取り、共通理解できるよう努めている。	今後も成長や課題について共通理解できるよう努めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレント・トレーニングには至っていないが、状況に応じて連絡をとっている。東京都や武蔵野市からのお知らせは必ずお伝えしていく。	保護者会の中で、家族に向けての情報提供等を検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に保護者に対して支援内容の説明を丁寧に行うよう努めている。利用者負担については制度変更時に説明・同意を得て、署名を頂いている。	分かりやすい丁寧な説明を心がけていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を作成する際には、個別支援計画の振り返りを伝えた後、こどもや保護者の意向を聞き取り、作成している。	引き続き意志の尊重、こどもの最善の利益を意識しながら行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		対面での説明および、保護者の希望により、電話で説明をしている。	引き続き丁寧な説明を心がけていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		生活面に関する相談を頂き、面談の際にやり取りを行っている。急な予定等で契約曜日以外にも利用したい申し出があった際には、相談、調整のうえ受け入れを行っている。	職員全員で知識やスキルの向上を図り、相談対応に努めていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度保護者交流会を開催している。次年度以降も継続して行う予定。きょうだい同士での交流する機会は行っていない。	きょうだい会は同法人の児童発達支援センター相談部ハビットで行っている。きょうだい交流会がある際にはお知らせしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		対応体制は整えており、契約書への記載と共に説明をしている。	苦情発生時は速やかに対応し、丁寧な対応を心掛けたい。また市が設置した事業所であるため、市と相談しながら苦情解決に努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		現在は会報等は作成していない。活動や行事についてはホームページに記載されている。また連絡帳アプリを通して発信している。	連絡帳アプリを使い連絡をしている。引き続き活動内容や行事、施設内の情報等の発信に努めていきたいと考えている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		利用児・保護者等に関わる文書は、すべてカギ付きの書庫に施錠保管している。また全職員に対して知れた個人情報の守秘義務の徹底を図っている。	個人情報の取り扱いには十分に留意している。万が一事故があった場合には速やかに対応していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児とのやり取りでは、言語だけでなく絵カードの提示や表情、仕草等も含めて意思疎通を図っている。保護者とのやり取りでは、連絡帳アプリの導入により、以前よりも具体的に活動の様子を伝えられるようになったとともに、ご家庭での様子や利用児の体調等把握しやすくなった。	引き続き行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		桜堤ケアハウス内にて、七夕の笹飾りイベントに参加する事で、入居者や地域の小学生と一緒に交流する機会を持てた。同施設内の高齢者から声をかけて頂いたり、活動に参加させて頂くことで交流を図っている。近隣の看護ステーションと共同企画を計画し行った。	引き続き取り入れていきたい。
非	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		災害発生時の対応としての緊急対応マニュアルや感染症対応マニュアルは保護者へ配布している。防犯マニュアルは施設全体で策定済み。また施設全体で、安全衛生・感染対策・事故防止等の各委員会を設置しており、職員の研修も行っている。	今年度は安全計画について保護者に周知している。事故防止や防犯マニュアルについての周知をしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		事業所で業務継続計画（BCP）を策定している。定期的に避難訓練やBCP訓練を実施している。子どもたちは利用曜日の都合で経験に差がある為、普段の生活の中で避難器具を経験する機会を設けている。	引き続き行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		パレットで行う医療的ケアやてんかん発作の対応について、医師からの指示書を頂けるよう保護者に依頼をしている。指示書を基に確認書を作成し、保護者との共有を図っている。服薬についても依頼表を作成し、保護者からの必要時に依頼する形をとっている。予防接種については、事前にお知らせを頂いたうえで、接種後の登所時はいつでも連絡が取れるようやり取りをしている。	引き続き丁寧に行っていく。

常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事が必要な時は自宅からお弁当を持参して頂き、お茶とおやつのみ事業所で用意提供している。おやつに関して、アレルギー等の配慮が必要な方は、アレルギー対応に関する同意書を保護者に記入して頂いている。それをもとにおやつを提供を行っている。	おやつ購入時には成分表を確認し、該当成分が入っていない物を購入する。 職員が常に意識できるようおやつを保管する場所に掲示し、今後も十分注意する。今後一般に登場しやすい食物が対象となれば医師の指示を仰ぎながら対応していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		令和6年度に安全計画を作成し、保護者へ周知をしている。安全計画をもとに安全点検や訓練を実施している。	引き続き行っていくと共に、必要に応じて更新していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の内容と共に、家庭でも災害時に安全に避難ができるよう約束事を決めておけるよう周知をしている。	引き続き行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故報告、ヒヤリハット共に職員間で確認し、気を付ける点等を共有している。	引き続き行っていくことでヒヤリや事故の防止に繋げていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		新規採用者にはオリエンテーションの一環として個別に研修を行っている。事業所内でも虐待防止・権利擁護研修を行っている。	今後も研修の機会を作っていく。 普段の支援の中で出てきた「小さな出来事や疑問」を会議の場で共有し、支援の見直しを行っていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		利用児の体調不良により体幹を支えるための座位保持や車椅子利用、自傷による怪我を避ける為に手を支える等、保護者へも説明・同意のうえ、個別支援計画に明記している。	引き続き、利用児の様子に応じて、身体拘束をしなくても良いよう支援を考えていく。